

論述ブースト No.16

生殖補助医療・不妊治療を論じる ― 技術の可能性・倫理・当事者支援を3軸で整理する

導入文

「不妊治療が保険適用になった」というニュースを知っていても、「生殖補助医療の倫理的問題は何か」「代理出産や精子提供の問題をどう論じるか」を整理できていない生徒は多い。技術の可能性・倫理的課題・当事者の心理的支援という3軸を持つことで、医学部小論文・面接で深みのある論証が書ける。

講義概要

生殖補助医療・不妊治療を「技術的可能性と限界」「倫理的課題（子どもの出自を知る権利・代理出産・選択的減数手術）」「当事者の心理的・社会的支援」の3軸で体系化する。保険適用の意義と課題、精子・卵子提供の法的整備、不妊治療の身体的・心理的負担まで整理し、医師志望者の視点で論証する。

授業目標：生殖補助医療論述をニュース知識から、技術・倫理・当事者支援の3軸による論証へ変える。

対象者：高2～高3・浪人生。医学部・医療系の総合型選抜・推薦入試で、生殖補助医療テーマの小論文・面接に備えたい生徒。

授業時間：授業90分＋演習・質疑応答30分

到達目標：生殖補助医療の主要な倫理的問題を3つ以上挙げられる／当事者支援の視点を論点に組み込める／「医師として何ができるか」を論証できる

授業構成（90分）＋演習・質疑応答（30分）

授業90分：1 導入：ニュース知識と3軸の論証を比較 2 技術軸：体外受精・凍結胚・着床前診断の現状と限界 3 倫理軸：出自を知る権利・代理出産・選択的減数手術の問題 4 当事者支援軸：心理的負担・社会的スティグマ・カップルへの支援 5 保険適用：アクセス拡大の意義と新たな課題 6 演習：「代理出産を法制化すべきか」を3軸で論じる 7 まとめ：「技術の進歩と倫理的整備の速度差」を論点化する習慣

追加30分：「生殖補助医療において医師が担うべき役割とその限界」を3軸で300字論述する演習と質疑応答を行う。

板書・スライド骨子：主要な生殖補助技術の整理／倫理的問題の3軸整理表／当事者支援の具体的内容／保険適用の意義と課題

課題：「不妊治療を受ける患者に対して医師はどのような支援ができるか」を技術・倫理・当事者支援の3軸を使って300字で論じる。

備考：高校・予備校の先生方／編入学試験および大学院受験への橋渡し的な基礎確認をしたい方にも対応。